

令和2年度第1回

6次産業化・地産地消推進協議会

令和3年3月24日（水）

幕別町役場3階3AB会議室

議 事 録

幕別町経済部農林課農政係

令和2年度第1回
6次産業化・地産地消推進協議会

議事日程

(令和3年3月24日(水)午後2時00分開会)

1 開 会

2 議 件

- (1) 議案1号 幕別町6次産業化・地産地消推進協議会会長の選任について
- (2) 議案2号 幕別町6次産業化・地産地消推進協議会副会長の選任について
- (3) 議案3号 幕別町6次産業化・地産地消等戦略の点検及び評価について

3 その他

4 閉 会

議 事 録

令和2年度第1回幕別町6次産業化・地産地消推進協議会

- 1 日 時 令和3年3月24日（水）午後2時00分～午後3時30分
- 2 場 所 幕別町役場3階3AB会議室
- 3 出席者 （15名）下山 一志、福田 隆行、角田 征男、藤原 昇、牛腸 健司
折笠 健、小笠原 保、岩谷 史人、仲島 亮介、宮部 維久子
橋坂 英樹、香田 裕一、西嶋 慎、高橋 宏邦、鯨岡 健
- 4 欠席者 （3名）森 晃、西田 靖昭、坂口 惣一郎
- 5 事務局 経済部長 岡田 直之、主査 今城 和智、主任 高田 麻菜美

議 事 の 経 過

(13 : 55開会)

(岡田部長)

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただ今より、令和2年度第1回6次産業化・地産地消推進協議会を開会いたします。

順次、お名前を申し上げますので、その場でご起立ください。

(飯田町長より、委嘱状交付) ※左側より時計回り

(岡田部長)

続きまして、飯田町長より、挨拶申し上げます。

(飯田町長挨拶)

(岡田部長)

会議に入ります前に、今年度初めての会議でありますので、委員の皆さまから簡単な自己紹介をいただきたいと思っております。

なお、委員名簿は、議事次第の裏面に記載しておりますので、こちらをご覧ください。

それでは、下山委員から時計回りで、お願いいたします。

(委員自己紹介)

ありがとうございました。

なお、JA幕別町 農産部 施設管理食品開発課長であります森委員は、本日欠席しておりますが、4月1日の人事異動で後任となります鈴木課長が出席しておりますので、ご紹介いたします。

(鈴木委員 自己紹介)

(岡田部長)

次に、事務局を紹介いたします。

(事務局職員自己紹介)

(岡田部長)

これより、令和2年度第1回幕別町6次産業化・地産地消推進協議会を開会いたします。会議は、会長が選任されるまでの間、飯田町長が議長を務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

(飯田町長)

それでは、議案第1号「幕別町6次産業化・地産地消推進協議会会長の選任について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(今城主査)

議案第1号「幕別町6次産業化・地産地消推進協議会 会長の選任について」ご説明申し上げます。議案書の1ページをご覧ください。幕別町附属機関設置条例第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により、会長を選任するものであります。

議案説明資料の1ページをご覧ください。はじめに、幕別町6次産業化・地産地消推進協議会の設置目的等について、ご説明申し上げます。幕別町6次産業化・地産地消推進協議会は、条例第2条 別表に基づき、町長の附属機関として設置するもので、所掌事務を「町内における6次産業化、農商工連携及び地産地消の取組に関する市町村戦略の策定及び市町村戦略に基づく事業の推進についての協議に関すること。」と定めており、委員の定数は18人以内、任期は2年と定めております。条例第5条第1項では、会長の選任は、委員の互選によるものとなっております。

議案説明資料の2ページをご覧ください。委員は、幕別町6次産業化・地産地消推進協議会規則第3条 別表に掲げるとおりで、JAをはじめとした農業関係団体、商工会、農業者、金融機関などで構成されており、議事次第の裏面に委員名簿を記載しておりますが、こちらの18名の名から委員の互選により選任していただくこととなります。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

(飯田町長)

ただいま、事務局から説明がありましたように、会長は、委員の互選によるものとされておりますが、会長の選任につきまして、どのような方法で行ったらよろしいでしょうか。

(藤原委員)

指名推薦がよろしいかと思えます。

(飯田町長)

ただいま、藤原委員から指名推薦でとの提案がございましたが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(飯田町長)

それでは、どなたがよろしいでしょうか。

(藤原委員)

岩谷 委員を推薦します。

(飯田町長)

岩谷 委員という推薦がありました、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(飯田町長)

それでは、会長は岩谷委員とすることで決定いたします。会長が選任されましたので、以降の議事進行は、岩谷会長にお願いいたします。

(岡田部長)

会長が選任されましたので、飯田町長は、これにて退席させていただきます。

(飯田町長 退席)

(岡田部長)

それでは、岩谷会長、席の移動をお願いいたします。

(岩谷会長 着席)

(岡田部長)

それでは、岩谷会長に一言ご挨拶をいただきたいと思います。

(岩谷会長 挨拶)

(岡田部長)

ありがとうございました。それでは、今後の進行は、岩谷会長にお願いいたします。

(岩谷会長)

それでは、議案第2号 令和2年度第1回幕別町6次産業化・地産地消推進協議会副会長の選任について を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(今城主査)

議案第2号「幕別町6次産業化・地産地消推進協議会 副会長の選任について」ご説明申し上げます。

議案書の2ページ、議案説明資料の1ページをご覧ください。議案第1号の会長と同様に、副会長の選任につきましても、条例第5条第1項の規定に基づき、委員の互選によるものとされております。このことから、先ほど決定した岩谷会長を除く17名の委員の中から、互選により選任していただくこととなります。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

(岩谷会長)

ただいま、事務局から説明がありましたが、副会長につきましても、会長職と同様に委員の互選によるものとされております。副会長の選任につきまして、どのような方法で行ったらよろしいでしょうか。

(藤原委員)

会長指名がよろしいかと思えます。

(岩谷会長)

ただいま、藤原委員から会長指名でとの提案がありましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(岩谷会長)

それでは、委員として経験豊富な J A 幕別町 営農部長の下山委員にお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(岩谷会長)

それでは、副会長は下山委員とすることで、決定いたします。

続きまして、議案第 3 号「幕別町 6 次産業化・地産地消等推進戦略の点検及び評価について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(今城主査)

議案第 3 号「幕別町 6 次産業化・地産地消等推進戦略の点検及び評価について」ご説明申し上げます。議案説明資料の 3 ページと参考資料 1 をあわせてご覧ください。

はじめに「幕別町 6 次産業化・地産地消等推進戦略」いわゆる市町村戦略について簡単にご説明申し上げます。参考資料 1 の市町村戦略は、1 ページ中段以降にも記載してありますが、農業を核として産業間での連携を強め、新たな産業の創出やそれに伴う商工・観光などとの一体的な振興を図り、地域全体の活性化を図ることを目的とした方策を示すもので、平成 30 年度に開催した本協議会を経て、平成 31 年 3 月に策定しております。議案説明資料の 3 ページになりますが、計画期間は、令和 6 年度までの 5 年間で、進行管理として、毎年 3 月に開催する本協議会において、実施状況等を検証することとなっております。戦略として、重点的に推進を図る農畜産物には、戦略の 7 ページから 8 ページにも記載してありますが、和稔じょ、インカのめざめなど 7 品目を定めております。6 次産業化の推進方策につきましては、戦略の 9 ページから 10 ページにも記載してありますが、人材育成から有機 J A S 認証農畜産物の加工品の製造、販売まで

の7つの事業を戦略に掲げております。

次に、6次産業化等の成果目標についてですが、検証の結果をご説明申し上げます。はじめに、(1)グリーンツーリズム施設等の交流人口と観光プランについてですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、①年間交流人口も目標値を下回っており、「まくべつ稔の里」が実施する農村ホームステイ事業が令和2年度中止となりましたことから、②農泊受入れ戸数の令和2年度実績は0戸と、大きく目標を下回っております。(2)新商品開発取組事業所等の件数につきましても、同様に、新型コロナウイルス感染症の影響から、新商品開発を行う事業者が減少し、目標値を下回っております。議案説明資料の4ページをご覧ください。次に(3)加工施設の新設件数と一般労働者の雇用創出についてですが、令和元年度に国の食料産業・6次産業化交付金を活用し、有限会社ベルセゾンファームが有機JAS認証農産物を使用した加工施設を整備したのですが、こちらも新型コロナウイルスの影響から施設が稼働しなかったため、新たな雇用の創出については目標を達成することができませんでした。(4)総合化事業計画の認定件数につきましては、先程のベルセゾンファームが認定を受けておりますので、目標を達成しております。(5)の一つ目の◎重点を図るべき農産物の作付面積につきましては、各年度の目標は設定しておりませんが、和稔じよは、横ばい傾向で、インカのめざめは、JA幕別町において、令和元年度から加工品の製造を開始したことから、増加傾向となっております。二つ目の◎有機JAS認証農産物の作付面積につきましても、各年度の目標は設定しておりませんが、先程ご説明したベルセゾンファームの加工施設が稼働しなかったことから、平成30年度の実績と同様となっております。

総括いたしますと、令和元年度、令和2年度ともに、新型コロナウイルス感染症の影響から、目標達成には至りませんでした。今後は、緊急事態宣言の解除やワクチン接種などから、消費拡大が見込まれますことから、加工施設が本格稼働し、6次産業化に取り組む事業者も増え、目標達成が期待できるものと考えております。

以上で「幕別町6次産業化・地産地消等推進戦略の点検及び評価について」の説明とさせていただきます。よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

(岩谷会長)

ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等はありませんか。

(下山副会長)

令和2年度に1件の新商品の紹介と開発経緯を教えてください。

(岡田部長)

幕別町で特産品研究開発における補助金（1商品あたり上限150万円）を活用し、忠類の株式会社エルパソでドイツ原産の「シュベーパービッシュ・ハル豚」と「ドロ豚」を掛け合わせて品種改良をしたオリジナル豚（シュベーパービッシュ・ハル豚の品種改良は日本初）を使用して、7種類の缶詰を開発した。パッケージは、町内の子どもたちにデザインしてもらった。首都圏の商談等に出展する予定である。

(香田委員)

インカのみぎめの作付が増えた要因は、加工品を増やすためか。

(森委員代理出席 幕別町農業協同組合 青果販売1課 鈴木課長)

馬鈴しょは「トヨシロ」の収穫が、8月上旬に終了し、下旬から「メイクイン」「トウヤ」の収穫が始まるため、収穫の空白の期間ができる。その空白期間に収穫時期を迎えるのが「インカのみぎめ」であり、この期間に収穫を終えると、後作の小麦の作付面積の確保ができる利点から、「インカのみぎめ」の作付面積が増加傾向にある。幕別町農業協同組合としても、増加傾向にある「インカのみぎめ」をそのまま販売するだけでなく、積極的に食品開発を行っていく予定である。

(岩谷会長)

ほかに質疑が無ければ、議案第3号「幕別町6次産業化・地産地消等推進戦略の点検及び評価について」は、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(岩谷会長)

異議がないようですので、議案第3号「幕別町6次産業化・地産地消等推進戦略の点検及び評価について」は、原案のとおり決定いたしました。

(岩谷会長)

次に、「3 その他」であります。事務局から何かありますか。

(今城主査)

令和元年度の本協議会では、市町村戦略に位置付けられ、整備した(有)ベルセゾンファームさんの加工施設を見学する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となっております。本日、見学はできませんが、折笠委員が出席しておりますので、加工施設の現状と今後の見通しなどについて、お話しいただけたらと思います。いかがでしょうか？

(折笠委員)

平成31年3月に加工工場を完成することができた。この場を借りてお礼申し上げたい。現状としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、あらゆる商談が中止となり、商品開発もストップしている。加工工場完成前から、原料や農作物の品種の選定及び試作を重ねていた。デザインは決まっていなかったものの、商品の開発は進んでいる。(※下表参照)

商品	原料（自家生産物）	特徴	備考
トマトジュース	・ミニトマト (4年かけて自然農法により40種類から1種類に選定。)	・赤色 ・透明な黄金色	「おいしい」の基準は、食育の観点から女性とこどものお客さんに選んでもらった。
マスタード	・ホワイトマスタード(2種類) ・ブラウンマスタード(1種類) (2年かけて10種類を3種類に選定) ・酢 (自家生産物加工品)	・日本人に合うように塩分を控えて調合している。	・中華料理屋やステーキ店などに持ち込み、使用してもらっている。
酢	・馬鈴しょ	・広島県の「センナリ おいしさ研究所大地」で加工を委託している。	
醤油	・大豆	・加工を委託している。 ・2種類開発。	
マヨネーズ (ビーガンマヨネーズ)	・酢 (自家生産物加工品) ・醤油 (自家生産物加工品)	・自家生産物以外の原料にもこだわり、アメリカ産有機ベニバナ油、マッシュルーム(十勝マッシュ)を使用している。	・ビーガン向けの卵を使用しないマヨネーズ ・砂糖不使用 ・国内産の有機油は高価 ・菜種油は比較的手に入れやすいが、癖が強すぎて、他の原料との相性が悪かった。

加工豆	・大豆		
きなこ	・大豆	・3種類の大豆を使用。	
小麦粉	・小麦		

(小笠原委員)

販売先はどのように決めているのか。

(折笠委員)

百貨店で販売でもよいが、売り上げの50%以上の手数料が発生する。そのため、現在の取引先である、関西、東海方面や生活協同組合、Bio c Bon（ビオ・セボン）（フランスのオーガニック専門店）、自然食品等の取引を継続するとともに、インターネット販売で複数の商品を選択してもらい購入してもらえらるような取組をしていきたい。

(香田委員)

加工施設の本格稼働はいつからなのか。

(折笠委員)

デザインさえ決まれば、すぐにでも本格稼働できる。原料も昨年産の作物を保管してあるので問題ない。加工設備は、ほとんどの工程をできるようにしてあるので、作物のおいしさを逃さないうちに加工していきたい。

(香田委員)

本格稼働した際には、ぜひふるさと納税にも出してほしい。

(折笠委員)

ぜひそうしたい。

(小笠原委員)

現状の給食の材料の幕別町産の材料の使用量と今後の目標があれば教えていただきたい。

(鯨岡委員)

馬鈴しょは、幕別町農業協同組合、札内農業協同組合及び忠類農業協同組合から通年購入している。幕別町産の材料は主ににんじん、玉ねぎ、大根や白菜などで、使用量は令和元年で41.5%だった。

(小笠原委員)

想像以上に高かったのが驚いた。幕別町産の材料を使うだけでなく、有機JAS認証品や加工品など給食の日などがあればよいのではないかと。常時使うことはコストの面からも

難しいと思うが、今後検討してほしい。

(鯨岡委員)

「まくべつの恵み給食」の事業では、令和元年度は1日、令和2年度は4日間設定して、幕別産の野菜や米、加工品ではハンバーグなどを使用した。機会は限られているが、積極的に活用したいと考えている。

(折笠委員)

給食を食べる子どもを持つ親から、給食をオーガニックに変えられないかと相談をされることがある。そこで1日オーガニックとして、材料を全て有機の者を使用したカレーを提案している。カレーであれば、必要な材料の量も分かりやすいし、有機のスパイスは海外のものであれば比較的安価に輸入品量販店で簡単に買うことができる。有機の米は国内産があるし、有機野菜は幕別町産でそろえやすい。肉はなくてもよい。たった1日でも、達成感が大きく、子どもたちにとっても食育になると思う。そして、例えば給食などで実現し、親の負担にさせないことが重要である。そういった方法をこの協議会で考えていかなければならないと考えている。

(鯨岡委員)

現在の給食では、カレーはアレルギー配慮の食材を使用して、子どもたちみんなが同じメニューを食べられるようにしている。実現の際には、その食材がアレルギー源とならないかどうかの確認をしながら検討していきたい。

(岩谷会長)

皆様方から何かございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

(岩谷会長)

それでは、以上をもちまして、令和2年度第1回幕別町6次産業化・地産地消推進協議会を閉会いたします。お疲れさまです。